

Indicators Update

2012年2月20日 全10頁

1月貿易統計～旧正月の影響もあり大幅な貿易赤字

経済調査部 エコノミスト 長内 智

1月の国際収支統計は経常赤字となる可能性

[要約]

- **【概況】輸出が4ヶ月連続のマイナス**：2012年1月の貿易統計は、輸出が大きく落ち込み、貿易収支が過去最大の赤字額になるなど、先行き不透明感が払拭されない内容であった。輸出金額は前年比▲9.3%と市場コンセンサスを僅かに上回ったものの、4ヶ月連続のマイナスとなり、減少幅も拡大した。ただし、前月のレポートで指摘したように、アジア地域の旧正月の影響が輸出に対してマイナスに作用した可能性が高いため、今回の輸出の落ち込みは幾分割り引いて評価する必要があると考えている。貿易収支は▲1兆4,750億円と4ヶ月連続の赤字となり、2009年1月の▲9,679億円を上回って、過去最大の赤字額を記録した。
- **【地域・品目別動向(名目)】春節の影響でアジア向けが急減**：主要品目別の輸出金額をみると、「電気機器」、「一般機械」、「化学製品」の減少が目立った。輸入については、代替燃料の需要増加と価格高止まりを背景に、「液化天然ガス」の輸入金額が前年比+74.3%、輸入数量が同+28.2%と揃って大幅に増加した。主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+0.6%（12月、同+3.9%）、EU向けが同▲7.7%（12月、同▲12.7%）、アジア向けが同▲13.7%（12月、同▲11.7%）となった。
- **【今後の見通し】輸出は横ばい圏が続く**：輸出は、海外経済の減速が重石となり、横ばい圏で推移すると考える。EU向け輸出は、欧州の財政・金融問題の影響が実体経済に顕在化しているため、弱めの動きが続く公算である。世界景気と為替に基づく当社の輸出数量指数の推計値に下げ止まりの兆しが出始めている。そのため、欧州問題が一段と深刻化しなければ、底堅く推移している米国経済や、金融緩和姿勢を強めている新興国経済が支えとなり、日本の輸出も徐々に持ち直していくと考えられる。円ドルレートについて単純な回帰式を用いて推計すると、経常収支の影響は為替レートに対してすぐに顕在化するのではなく、ラグを伴って作用する結果が得られた点には留意したい。

【概況】輸出が4ヶ月連続のマイナス

過去最大の貿易赤字

2012年1月の貿易統計は、輸出が大きく落ち込み、貿易収支が過去最大の赤字額になるなど、先行き不透明感が払拭されない内容であった。輸出金額は前年比▲9.3%と市場コンセンサス（同▲9.4%）を僅かに上回ったものの、4ヶ月連続のマイナスとなり、減少幅も拡大した。また、輸出金額の基調は、季節調整値（3ヶ月移動平均）が4ヶ月連続のマイナスとなったように、弱含み傾向が続いている。ただし、前月のレポートで指摘したように、アジア地域の旧正月の影響が輸出に対してマイナスに作用した可能性が高いため、今回の輸出の落ち込みは幾分割り引いて評価する必要があると考えている。輸入金額は、資源価格の高止まりと原子力発電所事故・稼働停止問題に伴う代替燃料の需要増加によって、前年比+9.8%と25ヶ月連続のプラスとなった。この結果、貿易収支は▲1兆4,750億円と4ヶ月連続の赤字となり、2009年1月の▲9,679億円を上回って、過去最大の赤字額を記録した。輸入価格は、前年比+6.5%と比較的高い伸びが継続したものの、水準をみると横ばい圏での推移となっており、伸び率は今後縮小していくとみられる。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）～4ヶ月連続の貿易赤字

	2011年											2012年 1月
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
輸出金額	9.0	▲2.3	▲12.4	▲10.3	▲1.6	▲3.4	2.8	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.3
コンセンサス												▲9.4
DIR予想												▲8.7
輸入金額	10.0	12.0	9.0	12.4	9.8	9.9	19.2	12.2	17.9	11.5	8.1	9.8
輸出数量	9.2	▲3.3	▲11.6	▲10.8	▲2.7	▲5.3	0.9	1.5	▲3.9	▲4.4	▲6.6	▲9.7
価格	▲0.2	1.0	▲0.9	0.5	1.1	2.0	1.9	0.9	0.2	▲0.1	▲1.5	0.5
輸入数量	4.9	5.5	1.3	5.5	1.7	▲2.6	6.0	1.0	6.0	▲1.0	▲0.7	3.1
価格	4.9	6.2	7.6	6.5	8.0	12.9	12.5	11.1	11.3	12.6	8.9	6.5
貿易収支	6,503	1,863	▲4,677	▲8,573	673	679	▲7,796	2,939	▲2,818	▲6,904	▲2,056	▲14,750

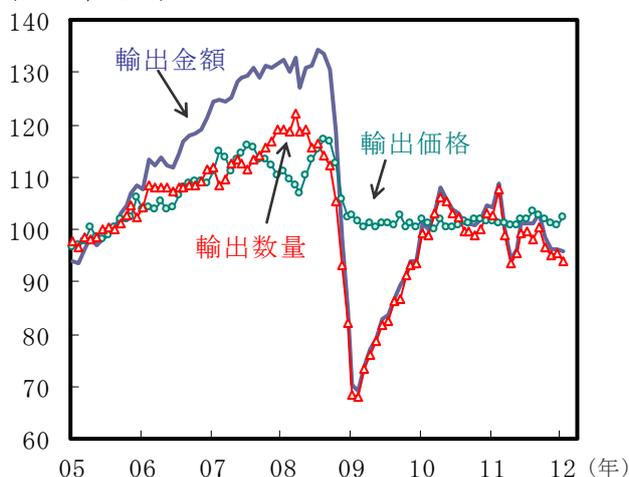
（注1）貿易収支は億円。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

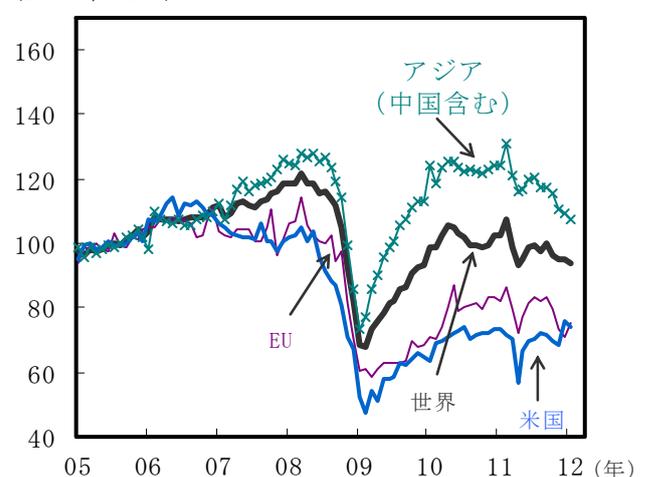
（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

図表2：輸出金額・数量・価格と地域別輸出数量の推移（季節調整値）～米国向けが底堅く推移

（2005年=100） 金額・数量・価格



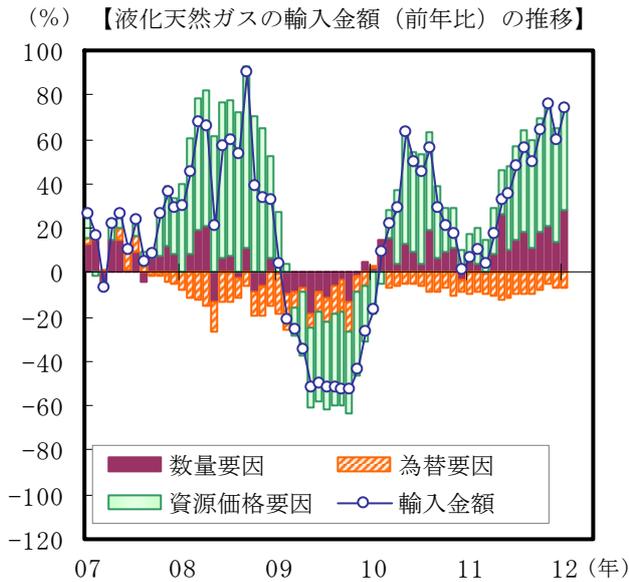
（2005年=100） 地域別の数量指数



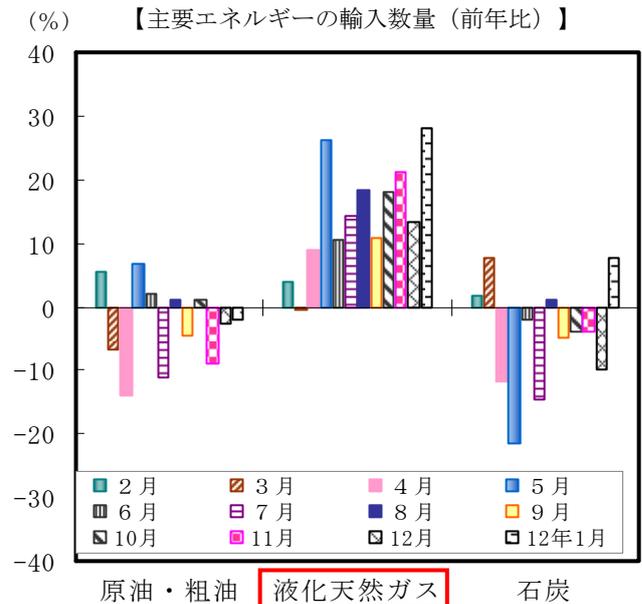
（注）季節調整は「輸出金額」が財務省、他は大和総研。

（出所）財務省統計より大和総研作成

図表 3 : 液化天然ガスの輸入金額と主要エネルギーの輸入数量 (前年比)



(注) 近似誤差により要因の合計は、全体と一致しない。
(出所) 財務省統計より大和総研作成



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【地域・品目別動向 (名目)】 春節の影響でアジア向けが急減

「電気機器」が11ヶ月連続のマイナス

主要品目別の輸出金額をみると、「電気機器」、「一般機械」、「化学製品」の減少が目立った。世界的な IT 関連製品の需要鈍化が長引いている影響で「電気機器」は前年比▲10.2%と11ヶ月連続のマイナスとなった。また、アジア地域で景気減速感が強まっていることを受けて「一般機械」が前年比▲8.7%と5ヶ月連続で減少し、マイナス幅も前月 (同▲6.4%) から拡大した。輸入については、代替燃料の需要増加と価格高止まりを背景に、「液化天然ガス」の輸入金額が前年比+74.3%、輸入数量が同+28.2%と揃って大幅に増加した。

米国向け輸送用機器は堅調

主要国・地域別の輸出金額は、米国向けが前年比+0.6% (12月、同+3.9%)、EU向けが同▲7.7% (12月、同▲12.7%)、アジア向けが同▲13.7% (12月、同▲11.7%) となった。アジア向けの減少は、春節 (旧正月) を背景に、中国向けが前年比▲20.1%と急速に落ち込んだことが大きく影響した。米国向けは、同国の個人消費と生産が堅調であることが日本の輸出増加に働いており、伸び率は僅かながらも3ヶ月連続のプラスとなった。特に、米国向け「輸送用機器」は前年比+11.2%と3ヶ月連続の増加となった。EU向けは、財政金融問題が重石となり4ヶ月連続のマイナスと弱含み傾向が続いた。なお、タイ向けの輸出金額は、大洪水の影響で前年比▲8.5%と大幅な減少となったものの、マイナス幅は前月 (同▲16.6%) より縮小した。

【今後の見通し】輸出の伸び悩みで貿易収支が弱含み

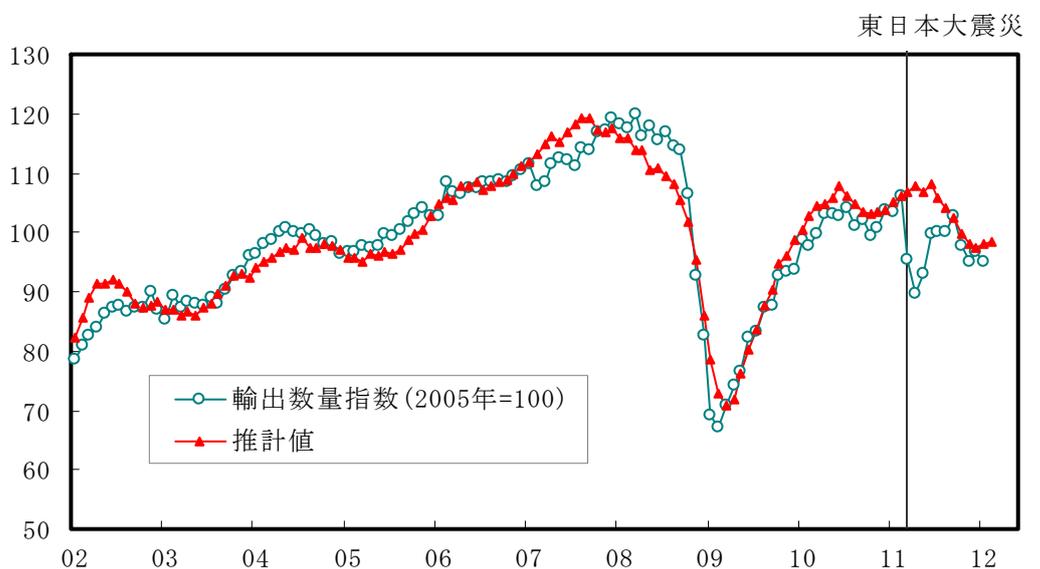
輸出は横ばい圏

輸出は、海外経済の減速が重石となり、横ばい圏で推移すると考える。EU向け輸出は、欧州の財政・金融問題の影響が実体経済に顕在化しているため、弱めの動きが続く公算である。欧州経済については、ドイツの生産に頭打ち感が出ていること、新車販売の低迷、厳しい雇用・所得環境などについて、今後も注意深く見極めていく必要がある。ただし、世界景気と為替に基づく当社の輸出数量指数の推計値に下げ止まりの兆しが出始めている（図表4）。そのため、欧州問題が一段と深刻化しなければ、底堅く推移している米国経済や、金融緩和姿勢を強めている新興国経済が支えとなり、日本の輸出も徐々に持ち直していくと考えられる。

貿易収支は弱含み傾向が続く

貿易収支は、しばらく弱含み傾向が続く見通しである。この背景は、原発の相次ぐ稼働停止に伴う代替燃料の輸入増加基調と輸出の伸び悩みである。また、今回の貿易収支の結果を受けて、2012年1月の経常収支（3月8日に公表予定）は、2009年1月以来の赤字に転落する可能性が出てきた。貿易黒字や経常黒字が潤沢である場合、例年3月は、決算期末を見据えた企業の円需要が旺盛となり、それが円高要因として作用する傾向にある。しかし、足下では貿易収支と経常収支が弱含んでいることから、例年と比べると、企業の円需要は弱く、ドル需要は強く現われるとみられる。なお、円ドルレートについて単純な回帰式を用いて推計すると、経常収支の影響は為替レートに対してすぐに顕在化するのではなく、ラグを伴って作用する結果が得られた点には留意したい（図表5）。

図表4：世界景気と為替による輸出数量指数

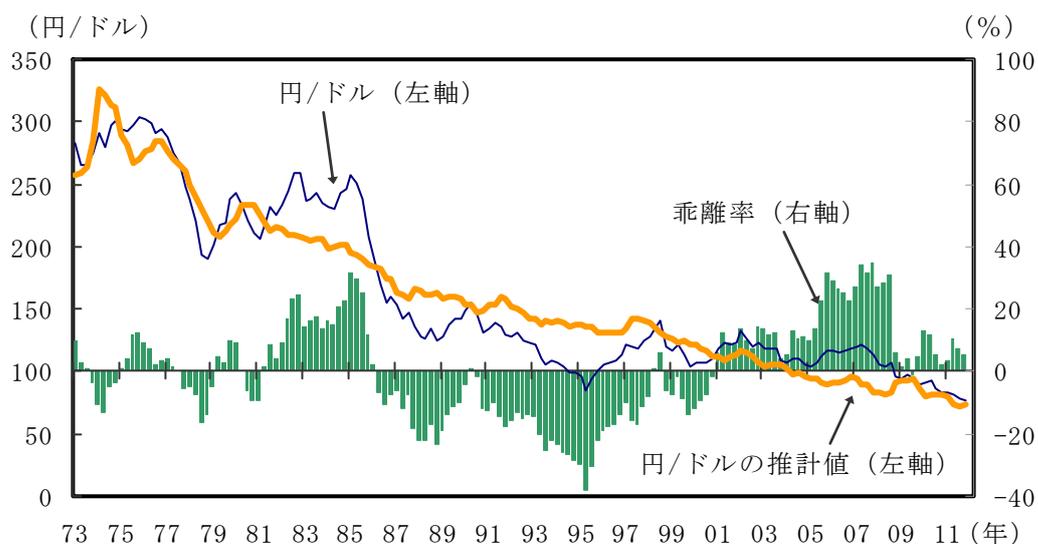


(注1) 輸出数量(推計値) = $-130.80 + 2.63 \times \text{OECD_CLI}[-2] + 0.18 \times \text{OECD_CLI_TR}[-2] - 0.53 \times \text{実質実効為替}[-2]$ (年)

* 括弧内[]は先行月数。係数は全て1%有意。推計期間は02年1月～11年2月。
OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。
OECD_CLI_TRは、トレンド復元ベースのCLI。

(注2) 輸出数量指数の季節調整は内閣府、直近月は大和総研推計。
(出所) 財務省、内閣府、OECD、日本銀行統計より大和総研作成

図表5：円ドルレートの推計値（実績値及び推計値）

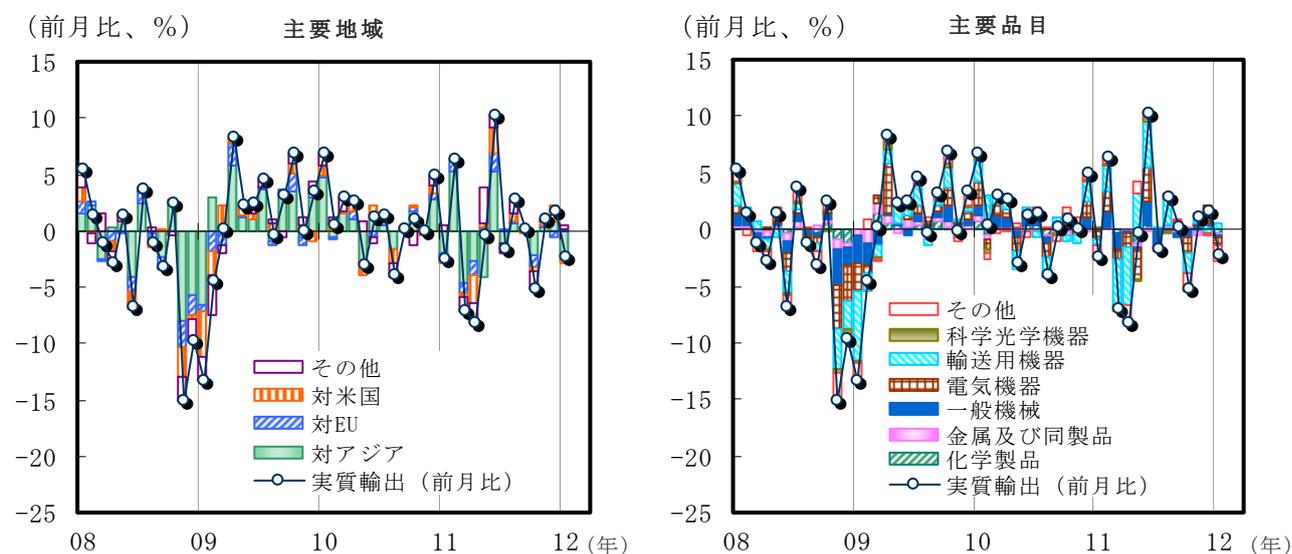


(注) 円ドルレートの推計値(t) = $-14.9 + 1.9 \times \text{日米の物価比}(t) + 2.5 \times \text{日米実質金利差}(t) - 3.4 \times \text{日本の経常収支対名目GDP比}(t-3)$
 日米の物価比と日米実質金利差は1%有意。日本の経常収支対名目GDP比は10%有意。
 (出所) 総務省、財務省、日本銀行、米国労働統計局、FRB、Haver Analyticsより
 大和総研作成

【参考】実質輸出の動向

実質輸出（季節調整値、当社試算）は、前月比▲2.3%と3ヶ月振りのマイナスとなった。主要国・地域別では、米国向けが前月比▲2.3%、EU向けが同+0.9%、アジア向けが同▲4.5%と、旧正月の影響でアジア向けが大きく落ち込んだ。EU向けは前月の大幅な落ち込みからの反動増でプラスとなったものの、伸び率は低いものに留まり、全体としてみれば弱含み傾向が継続した。

図表6：実質輸出（季節調整済み前月比）の主要項目別の寄与度

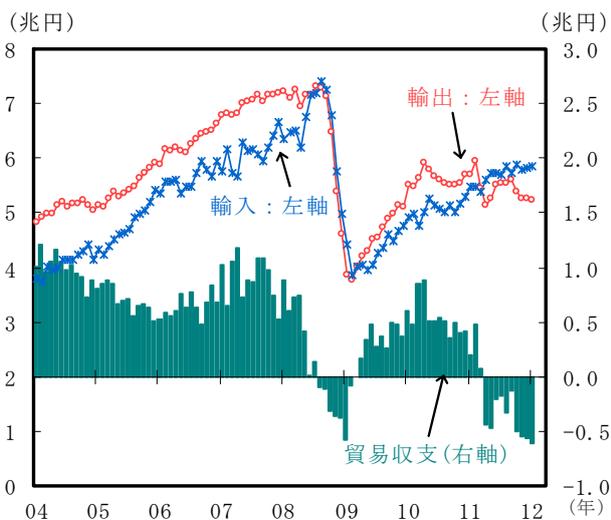


(注) 実質化と季節調整は大和総研。
 (出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

概況

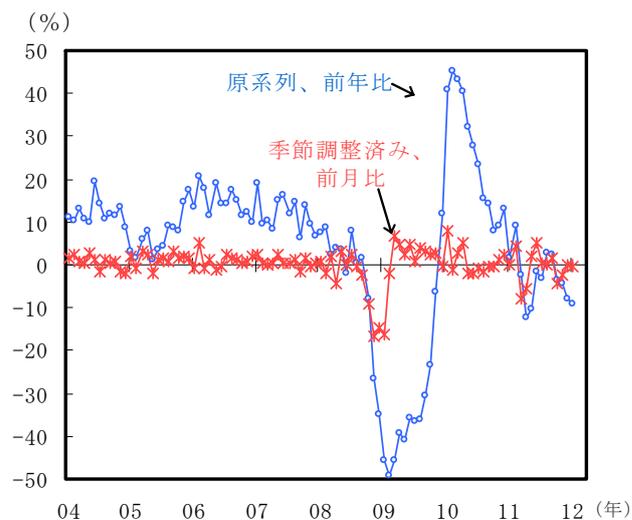
貿易収支の赤字基調が継続

輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）

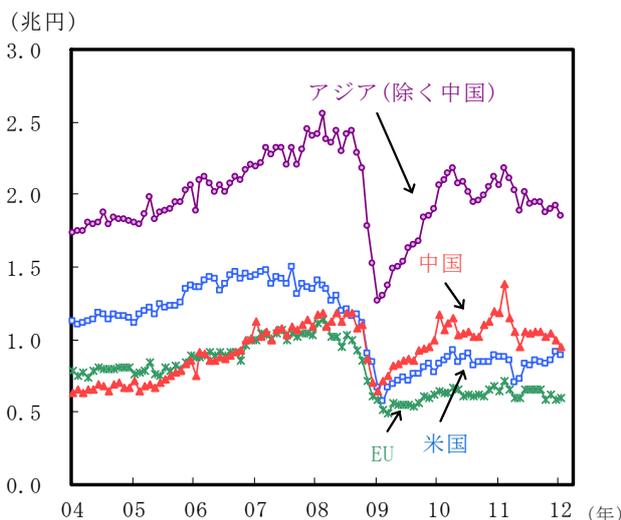


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率（名目）

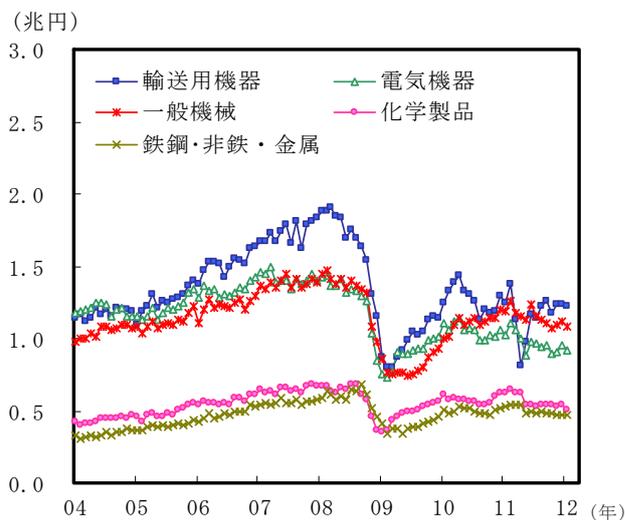


主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）

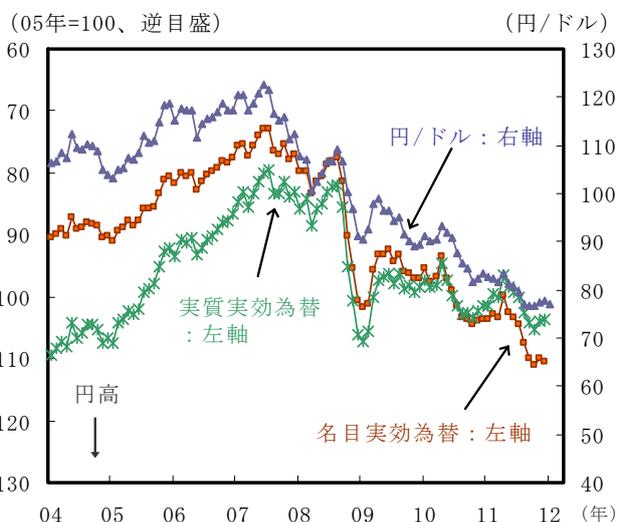


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）

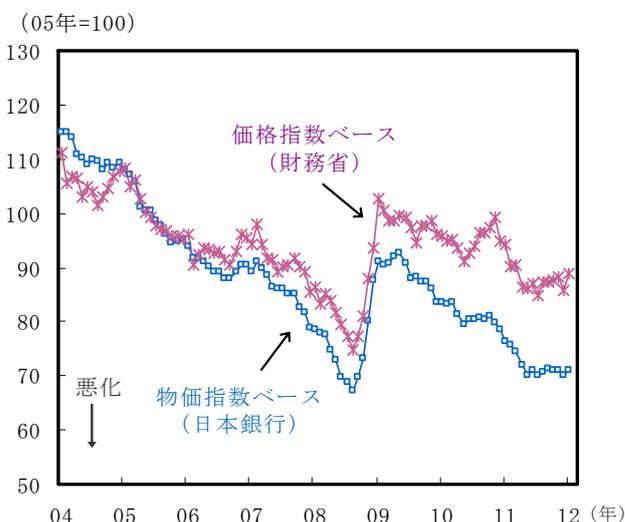


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



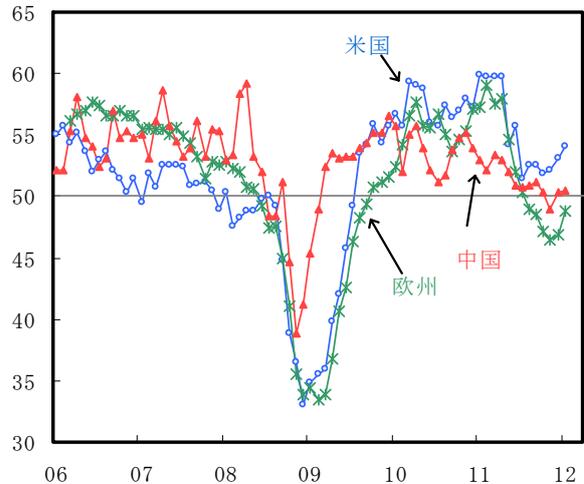
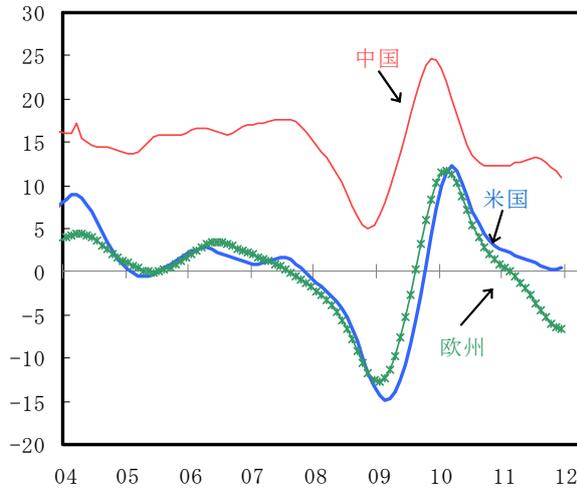
海外環境

製造業PMIが改善傾向

OECDの景気先行指数 (米国・中国・欧州)

製造業PMI (米国・中国・欧州)

(前年比、%)



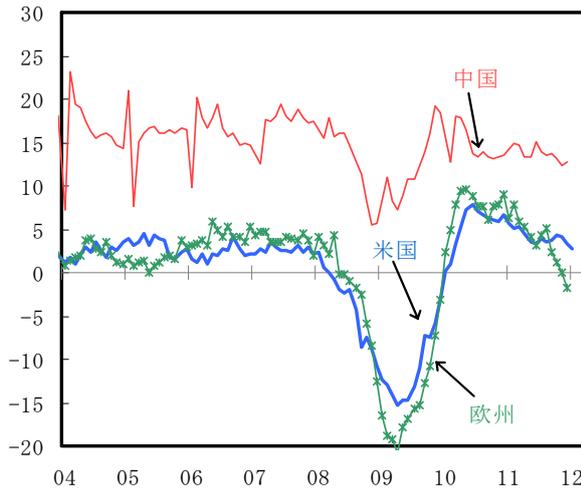
(注) 景気先行指数はトレンドを含むベース。

(出所) OECD、米ISM、中国物流購買連合会、Markitより大和総研作成

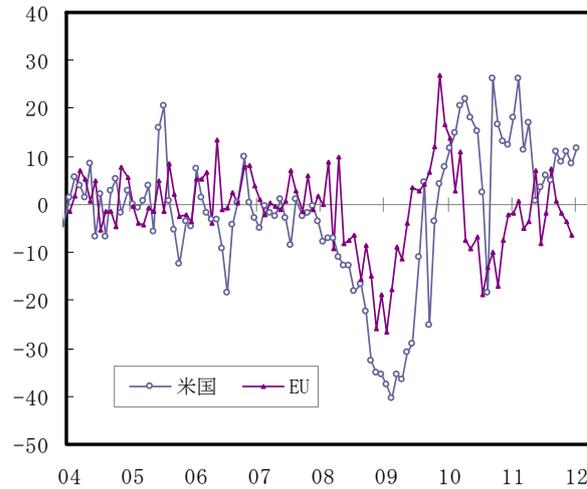
鉱工業生産指数 (米国・中国・欧州)

米国と欧州の自動車販売

(前年比、%)



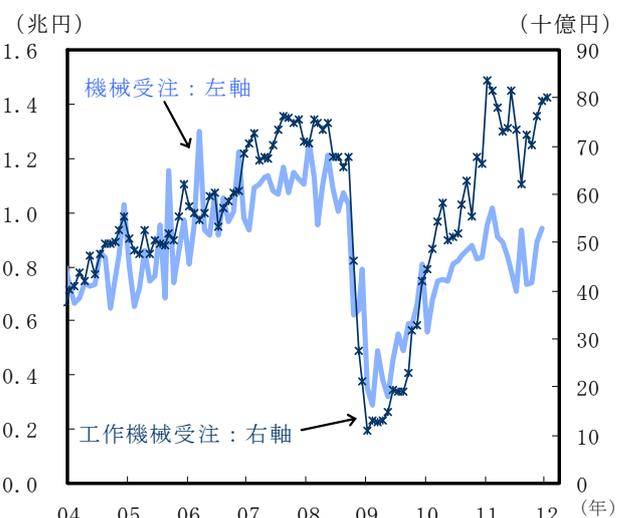
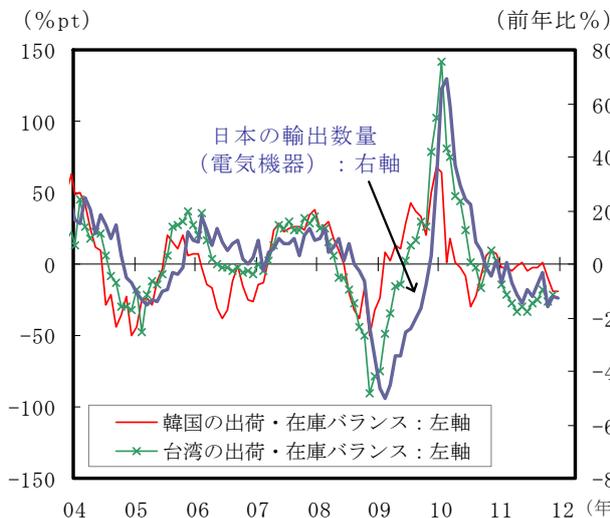
(前年比、%)



(出所) 中国国家统计局、Eurostat、FRB、オートデータ社、欧州自動車工業会(ACEA)より大和総研作成

韓国・台湾の出荷・在庫バランス (電子部品)

機械受注と工作機械受注の外需 (季節調整値)



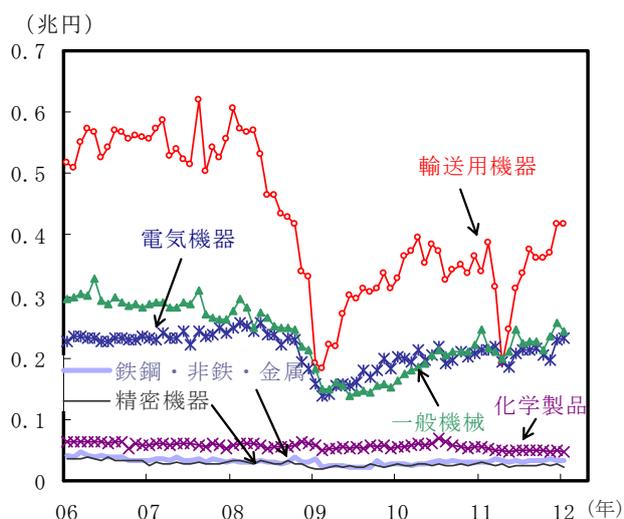
(注) 工作機械受注の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、内閣府、日本工作機械工業会統計、CEICより大和総研作成

主要地域・国別の実質輸出(季節調整済み)

米国向けが堅調

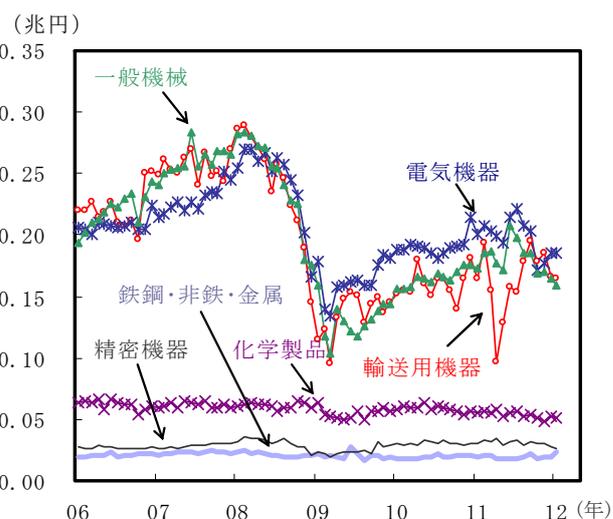
米国向け



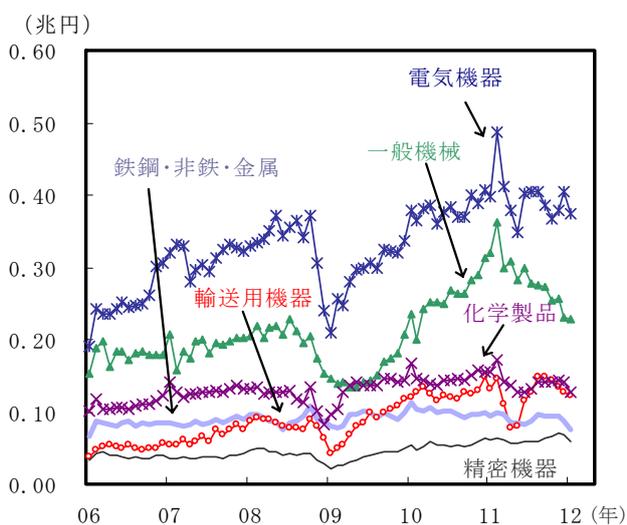
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

EU向け



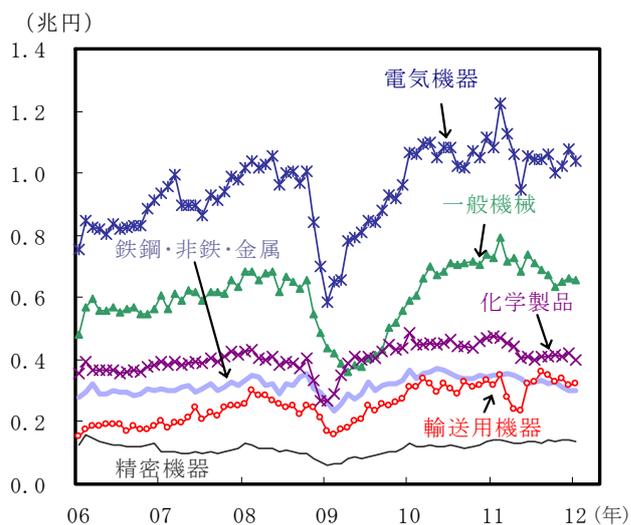
中国向け



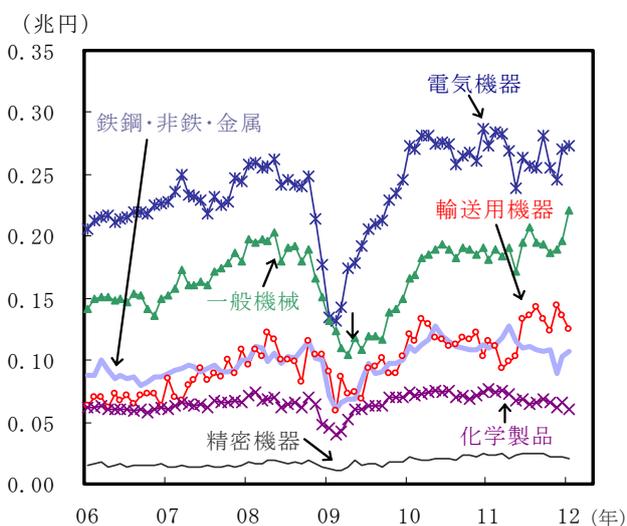
(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

アジア向け(中国含む)



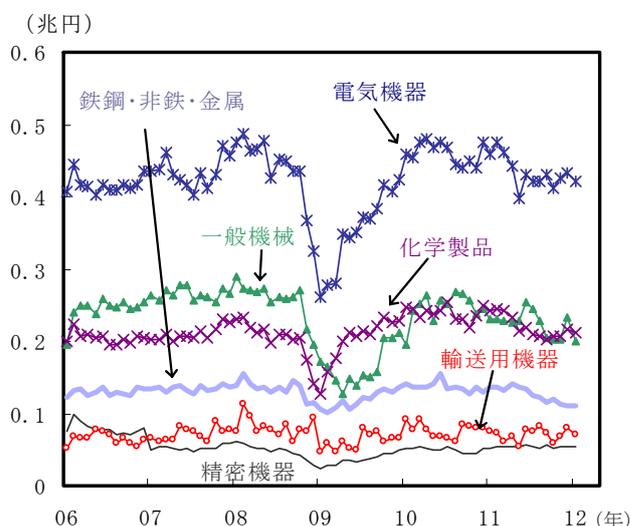
ASEAN向け



(注) 実質化と季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

NIES向け



輸出金額 内訳

	2011/08	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.8	2.3	▲3.8	▲4.5	▲8.0	▲9.3	100.0	▲9.3
食料品	▲9.7	▲12.6	▲29.2	▲9.4	▲14.5	▲26.7	0.5	▲0.2
原料品	11.8	17.0	▲2.6	7.2	▲5.2	▲1.1	1.5	▲0.0
鉱物性燃料	8.5	8.3	40.3	▲3.1	▲30.8	▲33.5	1.5	▲0.7
化学製品	0.2	▲1.4	▲2.7	▲12.5	▲14.0	▲17.4	10.1	▲1.9
原料別製品	2.2	1.4	▲0.4	▲4.7	▲8.0	▲10.9	12.8	▲1.4
鉄鋼	1.5	▲4.6	2.5	▲9.2	▲11.4	▲11.4	5.7	▲0.7
非鉄金属	5.4	13.6	▲0.6	▲4.3	▲8.2	▲14.8	1.8	▲0.3
金属製品	0.5	4.5	1.1	1.0	▲4.2	▲3.9	1.4	▲0.1
一般機械	2.6	▲0.6	▲5.6	▲4.1	▲6.4	▲8.7	19.8	▲1.7
電気機器	▲4.9	▲4.0	▲12.3	▲10.7	▲10.1	▲10.2	16.8	▲1.7
半導体等電子部品	▲16.4	▲9.0	▲20.8	▲15.1	▲13.0	▲15.8	5.2	▲0.9
I C	▲17.3	▲7.6	▲21.8	▲12.4	▲7.8	▲12.8	3.5	▲0.5
映像記録・再生機器	19.8	▲9.6	▲11.8	▲52.1	▲31.9	0.9	1.0	0.0
音響・映像機器の部分品	▲16.7	▲17.8	▲27.3	▲20.4	▲23.5	▲17.3	0.5	▲0.1
電気回路等の機器	0.3	2.2	▲8.1	▲4.1	▲7.2	▲10.8	2.4	▲0.3
輸送用機器	7.7	5.1	▲0.2	3.9	▲4.3	▲1.4	25.7	▲0.3
自動車	5.3	4.9	6.1	▲0.6	▲4.1	2.2	14.9	0.3
自動車の部分品	5.2	11.5	0.4	3.5	▲5.5	▲4.9	4.5	▲0.2
その他	8.9	14.2	▲1.9	▲5.5	▲5.9	▲10.9	11.3	▲1.3
科学光学機器	3.7	15.2	9.2	10.9	▲1.1	▲7.0	3.0	▲0.2

米国向け輸出金額 内訳

	2011/08	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	3.5	0.4	▲2.3	2.0	3.9	0.6	100.0	0.6
食料品	3.6	▲10.0	▲5.6	▲8.3	10.8	▲3.2	0.4	▲0.0
原料品	▲22.3	▲7.2	▲5.0	▲5.9	▲4.3	31.5	0.8	0.2
鉱物性燃料	▲36.6	▲91.3	873.3	835.6	▲34.8	▲25.3	0.1	▲0.0
化学製品	▲9.7	▲6.9	▲6.4	▲11.7	▲16.1	▲17.1	5.6	▲1.2
原料別製品	▲0.6	4.6	▲0.6	13.5	3.5	▲0.2	7.2	▲0.0
鉄鋼	14.6	13.0	14.0	30.8	14.8	19.2	2.5	0.4
非鉄金属	7.9	2.2	▲10.6	▲4.7	▲8.2	▲21.2	0.5	▲0.1
金属製品	0.2	13.5	12.2	22.7	12.5	1.9	1.4	0.0
一般機械	8.4	4.5	▲1.1	8.4	13.2	▲4.4	24.6	▲1.2
電気機器	1.5	0.8	▲8.2	▲8.8	1.7	1.0	14.8	0.1
半導体等電子部品	▲11.7	9.2	▲14.5	▲11.3	▲4.5	▲15.1	2.1	▲0.4
I C	▲13.1	13.1	▲17.1	▲11.8	▲9.9	▲27.0	1.1	▲0.4
映像記録・再生機器	25.0	▲4.0	▲19.4	▲58.6	▲34.8	17.9	1.3	0.2
音響・映像機器の部分品	80.1	▲16.0	▲13.4	▲6.1	▲9.7	▲7.9	0.3	▲0.0
電気回路等の機器	▲10.4	▲7.8	▲5.0	8.3	2.0	▲3.6	1.5	▲0.1
輸送用機器	10.2	0.5	▲1.0	3.4	6.8	11.2	37.5	3.8
自動車	15.3	▲4.6	▲0.8	▲0.4	1.9	14.0	27.7	3.4
自動車の部分品	▲9.2	15.5	▲7.4	5.3	15.2	▲6.7	6.1	▲0.4
その他	▲0.2	▲1.5	▲6.7	▲6.2	▲11.8	▲11.2	8.9	▲1.1
科学光学機器	▲5.8	▲0.4	0.8	▲3.9	▲6.6	▲21.9	2.2	▲0.6

EU向け輸出金額 内訳

	2011/08	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	6.0	7.1	▲2.9	▲4.6	▲12.7	▲7.7	100.0	▲7.7
食料品	▲19.1	22.5	▲14.4	1.7	8.3	▲15.1	0.2	▲0.0
原料品	4.4	81.4	▲9.2	24.8	▲27.6	4.9	1.0	0.0
鉱物性燃料	▲95.5	▲97.1	▲95.9	▲97.6	▲90.7	▲87.2	0.1	▲0.4
化学製品	▲3.3	1.3	▲6.2	▲11.8	▲11.7	▲13.6	8.9	▲1.3
原料別製品	6.8	15.8	0.6	▲2.0	▲6.0	1.9	7.6	0.1
鉄鋼	▲0.7	4.2	▲8.3	▲22.0	▲31.2	▲13.3	1.1	▲0.2
非鉄金属	10.7	100.9	▲8.0	15.7	43.7	127.2	1.7	0.9
金属製品	5.4	▲1.4	▲1.6	▲0.8	▲13.1	▲14.6	1.2	▲0.2
一般機械	9.3	11.3	▲4.4	▲5.8	▲9.0	▲11.2	24.3	▲2.8
電気機器	2.6	▲1.5	▲15.8	▲14.9	▲20.0	▲14.5	17.3	▲2.7
半導体等電子部品	▲21.0	▲28.3	▲33.8	▲24.6	▲29.7	▲30.2	2.5	▲1.0
I C	▲12.6	▲19.9	▲18.2	▲2.5	▲7.7	▲19.4	1.3	▲0.3
映像記録・再生機器	8.3	▲8.7	▲30.1	▲53.9	▲51.9	▲19.6	1.6	▲0.4
音響・映像機器の部分品	▲42.2	▲47.0	▲52.1	▲32.8	▲35.1	▲20.3	0.4	▲0.1
電気回路等の機器	10.8	6.3	▲7.2	▲11.9	▲10.7	▲16.6	1.5	▲0.3
輸送用機器	3.6	20.4	21.1	5.9	▲14.6	▲9.2	24.5	▲2.3
自動車	7.4	31.9	25.1	▲13.7	▲20.1	▲29.7	11.5	▲4.5
自動車の部分品	2.7	9.4	5.4	4.7	2.3	2.6	5.6	0.1
その他	20.3	0.7	▲4.6	4.9	▲6.0	12.0	16.1	1.6
科学光学機器	▲16.7	3.2	▲1.2	3.1	▲11.5	▲15.8	3.5	▲0.6

アジア向け輸出金額 内訳								
	2011/08	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	0.3	0.2	▲6.8	▲8.1	▲11.7	▲13.7	100.0	▲13.7
食料品	▲10.7	▲13.6	▲33.2	▲7.9	▲19.5	▲30.2	0.7	▲0.3
原料品	16.1	11.3	▲2.2	4.9	▲1.1	▲4.7	2.3	▲0.1
鉱物性燃料	16.1	29.9	20.3	29.9	▲34.2	▲33.3	2.1	▲0.9
化学製品	1.9	0.5	▲1.5	▲13.0	▲15.3	▲19.4	14.2	▲3.0
原料別製品	1.9	0.5	▲2.1	▲9.2	▲13.9	▲15.9	16.6	▲2.7
鉄鋼	▲0.4	▲5.5	▲1.5	▲15.2	▲18.8	▲16.7	8.0	▲1.4
非鉄金属	7.1	11.1	1.6	▲1.7	▲11.7	▲21.2	2.7	▲0.6
金属製品	1.4	5.1	▲0.4	▲5.9	▲8.3	▲5.2	1.7	▲0.1
一般機械	▲4.9	▲8.4	▲13.5	▲10.5	▲12.9	▲12.9	19.6	▲2.5
電気機器	▲6.8	▲3.9	▲12.6	▲10.2	▲10.9	▲11.6	21.6	▲2.5
半導体等電子部品	▲15.8	▲7.9	▲20.3	▲14.3	▲12.0	▲14.6	8.5	▲1.3
IC	▲17.6	▲8.1	▲22.3	▲12.9	▲7.6	▲11.4	6.1	▲0.7
映像記録・再生機器	22.1	▲15.7	14.7	▲44.3	▲23.2	1.1	1.0	0.0
音響・映像機器の部分品	▲7.3	10.7	▲14.0	▲18.0	▲22.2	▲17.3	0.7	▲0.1
電気回路等の機器	0.4	4.2	▲9.0	▲4.6	▲7.6	▲9.8	3.6	▲0.3
輸送用機器	18.1	3.7	▲0.6	▲0.6	▲10.5	▲5.3	9.9	▲0.5
自動車	13.9	10.1	18.3	8.2	▲10.7	▲1.2	4.5	▲0.0
自動車の部分品	13.3	13.3	0.7	1.2	▲17.4	▲9.3	3.8	▲0.3
その他	2.7	12.3	▲3.5	▲6.2	▲1.2	▲10.3	13.0	▲1.3
科学光学機器	7.8	17.7	14.0	13.6	1.7	▲6.0	3.8	▲0.2

中国向け輸出金額 内訳								
	2011/08	2011/09	2011/10	2011/11	2011/12	2012/01		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	2.4	2.7	▲8.1	▲7.9	▲16.2	▲20.1	100.0	▲20.1
食料品	▲35.8	▲54.0	▲74.5	▲35.8	▲32.3	7.3	0.3	0.0
原料品	17.9	10.4	▲1.0	2.9	▲6.6	▲14.1	3.4	▲0.5
鉱物性燃料	▲32.1	▲4.3	11.0	48.7	▲68.6	▲23.4	1.4	▲0.4
化学製品	7.2	7.4	▲3.1	▲10.7	▲13.0	▲22.6	14.0	▲3.3
原料別製品	3.2	6.6	▲1.3	▲3.2	▲15.2	▲21.4	13.5	▲3.0
鉄鋼	2.8	2.7	▲5.9	▲13.4	▲17.7	▲25.8	5.3	▲1.5
非鉄金属	9.3	18.8	6.5	21.7	▲14.3	▲18.9	2.6	▲0.5
金属製品	3.8	5.2	1.4	▲4.8	▲13.3	▲17.0	1.7	▲0.3
一般機械	1.5	0.9	▲13.4	▲14.1	▲28.4	▲31.0	20.5	▲7.3
電気機器	▲0.1	▲3.6	▲14.6	▲9.8	▲7.8	▲13.3	24.0	▲3.0
半導体等電子部品	▲7.1	▲1.3	▲21.8	▲6.6	8.0	▲3.4	9.7	▲0.3
IC	▲7.0	2.3	▲25.1	▲6.7	14.9	4.3	7.4	0.2
映像記録・再生機器	24.4	▲30.4	29.1	▲52.9	▲15.2	▲2.7	1.4	▲0.0
音響・映像機器の部分品	19.1	29.0	▲1.4	▲14.7	▲17.3	▲29.5	0.8	▲0.3
電気回路等の機器	▲0.2	▲2.2	▲8.7	▲2.9	▲14.1	▲16.1	3.9	▲0.6
輸送用機器	21.0	13.1	10.7	▲2.5	▲19.0	▲13.5	11.1	▲1.4
自動車	14.7	7.7	13.9	▲8.5	▲23.4	▲17.0	5.4	▲0.9
自動車の部分品	23.6	15.6	6.5	3.2	▲16.2	▲8.5	5.6	▲0.4
その他	▲7.2	1.3	▲12.7	▲4.1	▲1.1	▲13.4	11.7	▲1.4
科学光学機器	5.7	21.4	21.3	18.1	7.5	▲8.0	5.4	▲0.4

(出所) 財務省統計より大和総研作成